

## 弘前市協働によるまちづくり推進審議会 会議録概要（第5回）

日 時	平成 28 年 11 月 10 日（木曜日）18 時 00 分～19 時 30 分		
場 所	弘前市役所新館 5 階入札室	傍聴者	なし
出席者	委員 (11 人)	佐藤会長、生島会長職務代理者、松本委員、舘田委員、 小山委員、鴻野委員、安田委員、八木橋委員、 小野委員、久保田委員、村上委員	
	事務局	(市民協働政策課職員)	
議 題	1. 答申案の審議 2. その他		

### 会議概要

会議は公開で行われた。

・議題 1 について、事務局より答申案のたたき台について説明を行い、各委員による審議がなされた。

・答申案のたたき台について、審議による意見等を踏まえ、事務局にて必要な修正を加えた後、会長が確認の上で答申案をとりまとめ、次回第 6 回審議会にて審議を進めることについて、各委員により了承された。

・議題 2 について、次回の第 6 回審議会の日程を 11 月 22 日（火曜日）午後 6 時からとすることについて事務局が提案し、各委員により了承された。

・主な意見等は以下の通り。

- 会長： たたき台ということで不十分なところが多々あるかと思う。より良い提案、答申になっていくように、文章や構成などの改善点等をいろいろとご指摘いただきたい。今日ご指摘いただいたものは再整理して、また次回提案し、さらに精査していきたい。忌憚のないご意見をいただきたい。

《条例に対する理解を深める取り組み》の提案部分

- 委員：3 今後の条例の「趣旨」の周知→ウ 小中高大学生が～  
” 何について” 教育機関との連携を図るのかということを書き記述する必要がある。  
第 2 回審議会でも、条例を理解するためのリーフレットの内容が子どもたちの理解できるものだったのか、あるいは、どう活用されるのかということで議論になっ

ていた。そういう意味では、このままだと事例紹介されただけで、今までと変わらないようなことになると思うので、例えば、条文の内容や協働について理解をしていくようなことを、教育機関と連携してやっていくというような中身にしていけば、趣旨と合うのではないか。

- 委員：4 取り組みの効果を常に確認・評価し～ 内容はいいけれども、「常に」とは、極端な話毎日朝から晩までということ。そういうことをやってほしいということであれば、「常に」という言葉がなくなるだけでいいのではないか。

#### 《情報共有に関する取り組み》の提案部分

- 委員：4 将来的に、市政懇談会が地域づくりの中に～ のところ。市政懇談会は町会連合会がやっているもので、市がやっているものではない。この前の議論の中で、将来こういう方向に行ったほうがいいのかという話があったし、私も将来はそうやっていったほうがいいんじゃないかなと発言した。ここは逆に、地域づくりのために市政懇談会が生かされていくという感じの表現になればいい。
- 市民協働政策課長：市政懇談会は、市が主催しているものではなく、市がお手伝いしている形の会議。確かにわかりました。そのように趣旨を踏まえて内容を検討させていただく。
- 委員：3 従来の、市に対する～、のところ。一番最後の「～実施の方法を工夫する」となると、市政懇談会とか具体的な会をやるという感じになる。だから、「意見の聞き方を」といった表現にすると、変わってくるのではないか。私もこの文章は、市政懇談会に限らず、市民の要望とか一般的なものを含めての話だと思った。
- 会長：これは陳情型か協働型か、というところで終わっているほうがいいのかも分からない。例えば、「協働型に向かっていくようにする」、など。
- 委員：5 女性や若い世代～ の中にある、「特定の職業の人」という表現ではなく、例えば“同じ背景をもったグループ”とか“同じ課題を持ったグループ・人々たち”とか。
- 委員：「市職員と同じくらいの人数」という表現も具合が悪い。人数はどうでもいいかも知れない。
- 委員：6 テレビ放送については、視聴率を精査し～ とあるが、テレビ視聴率を精査し、把握することは可能なのか。
- 事務局：審議の中で、広聴広報担当者から、テレビ広報番組の視聴率を取っている旨の説明があった。

- 会長：“精査”と言う表現は重い。
- 委員：「効果的な放送」といった表現でいいのではないか。
- 委員：7 条例において「学生」も～ SNSや電子媒体で発信する内容は、学生に関する情報に限らず、市民活動といったことでもいいのではないか。若い人は学生だけではないし、割と学生は注目されているので、逆に学生以外の若い人をすくい上げるような方向にしたほうがいいのではないか。
- 委員：この審議会の議論で、出前講座を提供するに当たり、どういった情報を提供するか、どのように先方と打ち合わせするかといった研修又はマニュアル化することで、より市民のニーズに合った出前講座を準備できるのではないかという意見があった。それは、出前講座を進めていく上で、重要な指摘だと思うので、提案の中に入れておいたほうがいいのではないか。
- 委員：持続可能な地域づくりを可能とならしめるために、協働でやるということであるから、やはりどこかに「持続可能な地域づくりのための市政運営」といった言葉があってもいい。持続性がないと協働とはならない。今の文面全体だと、スポット的な内容でしかない。
- 委員：9 地域のコーディネーターとしての「エリア担当職員」～ 「役割の強化」や「参加を促進する」という表現は、実際にどんな感じでやればいいのかという、ちょっと漠然としている。もうちょっと具体的なところが入ればいいのか。
- 委員：体裁のところで気になったのが、①評価・提案のところ、●●＝■■（項目＝説明文）という形の表現のところと、そうでないところが混在しているので、どちらかに統一した方が良くなるのでは。②4頁これまでの取り組み状況のところ、今回諮問受けた2つの項目で標記の仕方が異なるので、形を似せた方が良くなるのでは。
- 委員：やはり市民が読んで、なるほどなとわかるような、多少、具体性をもたせた表現で、柔らかい表現にした方が、我々一般市民としては取りつきやすいのかな、理解しやすいのかなという気がする。
- 委員：9頁の10番目の最後の文章のところ、アーカイブズとして見られる場や仕組みを検討することとあるが、いつ検討して形として提示するのかと捉えてしまう。ちょっと投げやりな感じが見受けられるので、他の表現のほうがいいのではないか。
- 委員：落としどころが難しい。気になったところとしては、8頁の提案の4番のところ、地域づくりとまちづくりという単語が2つ入っているので、会議の名称

からしても、まちづくりに統一したほうがいいと思う。(会長：協働によるまちづくりで統一したい。)

- 委員：提案の2番、多様な媒体から情報が発信されていることについてPRすること、多様な媒体で情報を発信すること、何かどっちも必要かなど。ただその多様な媒体でというのは、提案の6番以降で触れられているともいえる。
- 委員：提案の2番の趣旨は、テレビではこんな時間にこんなことをお知らせしている、アップルウェブではこんな時間にこんなことを放送しているということを知らない人は知らないなので、例えば、市のそういう放送はこういう時間にこんな内容でやるというのを広報に載せることによって、じゃあ聞いてみようか見てみようかと、そういう喚起を促すことをしなさいという意味だと思う。
- 委員：審議会の中で、テレビ・ラジオ広報番組をいつ・何回放送しているという資料を見て、初めて分かった。普段は、我々の目に触れない部分なのではないかと思う。そのことを実はここで言いたかった。
- 委員：提案の全体の流れとして、情報発信に関するものが先にきて、その後に出前講座や市政懇談会が来れば座りがいい。

#### 《条例の見直しについて》

- 会長：条例の見直しについて。たたき台にあるように、審議会では、市の取り組みが条例の趣旨に沿って運営されているかどうかについて議論した結果、～現時点において、条例の見直しが必要な条文は、特に認められない。としているが、条例の全文はやっていないので、これはどうなのか。
- 委員：事実のとおり、その部分に関してだけ書けばいいのではないか。条例のうち、この第何条に関してはとか、第1章の中の第何条～何条について議論した結果、改善することは特に認められませんでしたと。
- 委員：いずれは、全文を審議するのか？全部読んではみたけれども。いいたい事はたくさんある。訂正の必要は無いけれども、ちょっと言葉を書き加えなきゃならないところが何条かある。
- 会長：趣旨からしても、諮問された事項が2つであるから、恐らくその条文について変更があるかないかということだと思う。(市民協働政策課長：それでよろしいです。)
- 会長：それでは、たくさんご意見をいただいたので、事務局と私との間で再度、精査させていただく。いくつか改善点があったほかにもご指摘いただいたところがある。それらを訂正改善したものを、次回に改めて提案させていただき、そこ

で、最終答申案を決定したい。

《その他》

- 委員：次回の時、ある程度が目途がついているのであれば、今年度はこの2つの大きな内容をみんなで審議することになったが、2年目3年目はどういうところを審議するのか、もし、事務局で目論見があれば、予め次回提示してもらった方がいい気がする。先程、ここだけやって他はやらないのかみたいな疑問も出ているし、そういうところで。（事務局：お示しします。）

以上